

大阪・大坂城跡

おおさかじょう

あつた大阪女学院構内である。調査地の所在する「玉造」の地には、豊臣時代に細川忠興・宇喜多秀家・前田利家・小出吉政・浅野長政ら大名の屋敷があつたとされている。

- 1 所在地 一 大阪市中央区玉造二丁目、二 同区内本町一
丁目
- 2 調査期間 一 一九九五年（平7）四月～五月、二 一九九五年九月
- 3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会
- 4 調査担当者 一 黒田慶一、二 南秀雄
- 5 遺跡の種類 近世城郭跡
- 6 遺跡の年代 一 安土桃山時代、二 安土桃山時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大坂城は天正二年（一五八三）の豊臣秀吉による大坂築城に始まるが、その下層には難波宮・京跡、石山本願寺跡が存在する。

- 一 NW九四一～〇次調査
調査地は中央大通り南側の、旧「越中町四丁目」に



(大阪東北部)

木簡は開析谷の肩部から出土した。この谷は豊臣時代前期においても深さ三・五m幅20m以上、長さ数十m以上にわたり、北西から南東方向に走っている。谷底は畠として利用されていたようで、畠が確認された。木簡は三点とも谷肩部の同一層の中から出土したもので、谷を埋める造成工事の直前に投棄されたと考えられる。この工事は木簡を含む層の出土遺物からみて、慶長二年（一五九八）の「大坂町中屋敷替」に伴う可能性が高い。

二 OS九五一～六次調査

調査地は本町通りを谷町筋から西に入ったところにあり、大坂城のなかでは惣構地域に位置する。周辺の調査によつて、豊臣期には本町通りの北に、通りと平行するように石垣があつたと推定されるが、本調査地でもこの石垣の根石と考えられるものが見つかっている。江戸時代には石垣が壊され、他の地域と同じ町割となつて町屋が形成される。

ここで報告する二点の墨書のある曲物の蓋は一七世紀末のゴミ捨て穴から出土したものである。

- 8 木簡の釈文・内容
一 NW九四一～〇次調査

1995年出土の木簡

(1) 「くちやはう卅三ちやうゆい

『草火』五八
一九九五年

(一) 黒田慶一、二南秀雄
文鳥居信子・豆谷浩之

・
二
の

(105) × 24 × 4 039

(2)

• 「 」

(3)

(曲物蓋) (60)×(33)×3 061

117×20×4 033

木簡研究第一四四

八木
充

(1)(2)は上端に切り込みのある荷札木簡である。(1)の「てつはう」は鉄砲のこと、「鉄砲三三挺を、五挺ごと結わえて運ぶ」という意味であろう。内容からみて周辺にあつた大名屋敷に関係する木簡と考えられる。(3)は曲物の蓋の破片である。

二〇〇九五二六次調查

(1)

(2)

指す可能性がある。

9 関係文献

黒田慶一「大坂城跡の【てつはう】木簡」(財)大阪市文化財協会

卷頭言
木簡研究第一四号

一九九一年出土の木簡
概要 平城宮跡 平城京左京二条二坊坊間路西側溝 平城京東市跡
推定地 唐招提寺 藤原京跡 飛鳥池遺跡 四条遺跡 長岡京跡(1)
長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 遠所遺跡 木津川河床遺跡 大坂城跡
住友銅吹所跡 桑津遺跡 竜華寺跡 高楓城跡 堺環濠都市遺跡
屏風遺跡 長田神社境内遺跡 宅原遺跡 桃狹遺跡(1) 桃狹遺跡(2)
(旧坪井遺跡) 光明寺遺跡 西河原森内遺跡 西河原遺跡 湯ノ
部遺跡 石川条里遺跡 内丘日向周地遺跡 小茶臼遺跡 富沢遺跡
多賀城跡 円福寺遺跡 田道町遺跡C地點 上荒屋遺跡 山田郷内
遺跡 稲城遺跡 吉野口(鯉山小)遺跡 三日市遺跡 長登銅山跡
空港跡地遺跡(第3工区) 雀居遺跡 興善町遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一四)

平城宮跡(第五〇・五一・五二・六三次) 上田部遺跡

郡家今城遺跡 郡家川西遺跡 じょうべのま遺跡 高瀬遺跡

考古資料としての古代木簡
八幡林遺跡等新潟県出土の木簡

木上と片岡
下級国司の任用と交通——二条大路木簡を手がかりに——
「敦煌漢簡」研究の現状と課題

山中 章
小林 昌二
岩本 次郎
鈴木 景二
吉村 昌之